

Take Free

全国のウインドサーファーをつなぐフリーペーパー

Wind NETWORK

vol.01



2021 Highlights

2021-2022 シーズン総決算



創刊

ウインドネットワークVOL.01 2022年5月発行 発行元/特定非営利活動法人 チャレンジスポーツクラブ

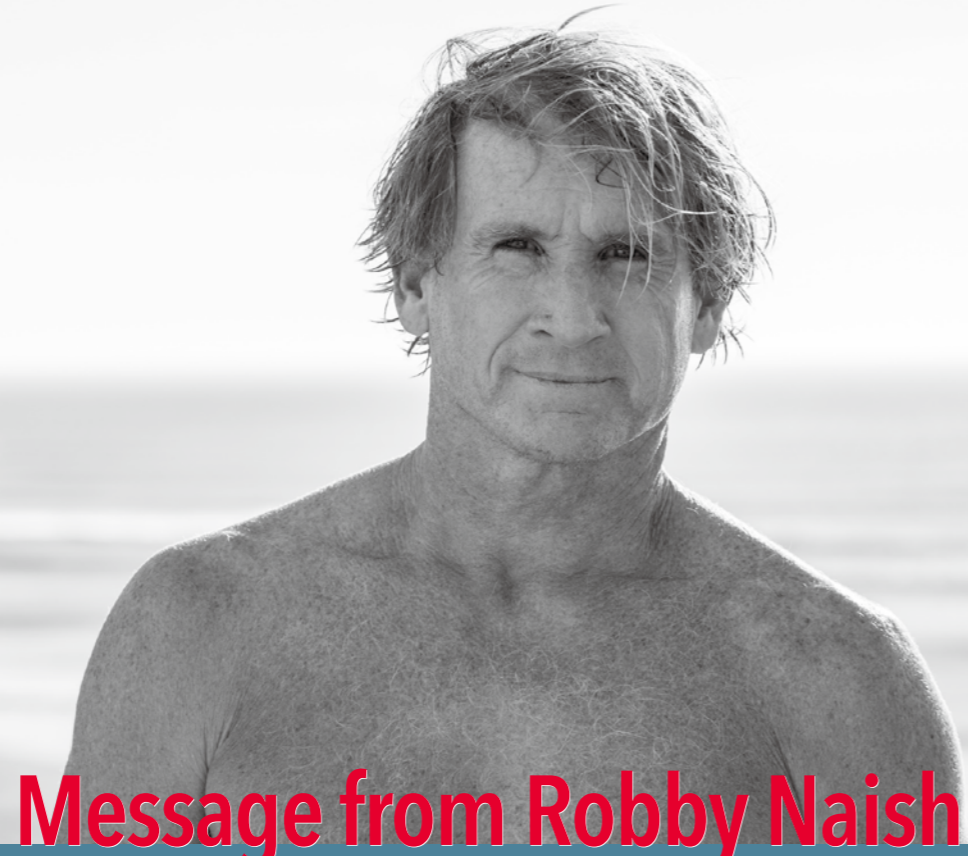


4711
Portugal

国内総代理店 株式会社柳屋本店お客様相談室 TEL.03-3808-2654

永井博氏の作画メイキング Making of 4711 Portugal by HIROSHI NAGAI WEBで公開中!





Message from Robby Naish

I want to wish everyone at "WindNetwork" Japan all the very best with your new magazine. It seems hard to believe, but I have been windsurfing now for almost fifty years. I began my journey with this incredible sport back in 1974 with the original windsurfer and wooden booms. I have enjoyed competing in every discipline, from one design to open class, division 2 and world cup racing, slalom freestyle and wave. Our sport has come a long way over these many years, but the essence of combining wind and water, a surfboard and a sail remain the same... pure fun. I always loved sailing in Japan... the world cup in Omaezaki was always one of the best events of the year. From the friendly people and culture to the food and always challenging conditions, I love Japan and still have many good friends there. Whether you are new to the sport of windsurfing or a life long rider like me, I wish you good winds, warm water, and lots of fun and adventure. Hopefully I will see you on the water sometime soon.

Aloha and good sailing,

Robby

WindNetwork の創刊に際し、関係者の皆様にご心よりお慶び申し上げます。思えば私がウインドサーフィン始めてから、早や 50 年が経とうとしています。私がこの素晴らしいスポーツに出会ったのは 1974 年、当時はウインドサーファー艇に木のブームという時代でした。私は今までにワンデザインクラス、オープンクラス、DII、ワールドカップ、スラローム、フリースタイル、ウェイブなどさまざまなカテゴリーにチャレンジし続けてきました。ウインドサーフィンというスポーツは今日に至るまで大きな躍進を遂げましたが、「風と波」「ボードとセイル」というシンプルな組み合わせが純粋な楽しみを生み出すという根本はいつまでも変わることはありません。日本でウインドサーフィンすることは私にとって大きな喜びでした。御前崎で行われたサムタイムワールドカップは、当時行われていたワールドカップの中でも特に素晴らしいものでした。日本でのウインドサーフィンは、気さくな人々との出会い、日本文化や美味しい食べ物、ハードでやりがいのあるコンディションも含めて私のお気に入り、日本の友人たちとの交流はいまだに続いています。ビギナーの皆さん、そして私のようなベテランウインドサーファーの方々も、どうぞいい風と温かい水に恵まれてたくさんの素晴らしい時間と冒険を楽しめますように。またいつか皆さんに海でお会いするのを楽しみにしております。

Aloha そして楽しいウインドサーフィンを!

Robby

profile

Robby Naish

Birth : April 23, 1963

1968 年、家族でカリフォルニアからハワイオアフ島カイルア移住。ウインドサーフィンと出会う。

1976 年、13歳でウインドサーファー世界選手権に優勝。それから 6 年間、アマチュアのトップに君臨し、1982 年プロに転向。1983 年、1984 年とタイトルを独占、1987 年まで毎年総合優勝。今ではウォーターマンとして活動し、1990 年代に入ってから NAISH ブランドを設立。WIND、SUP、KITE、WING などを扱う会社の社長でもある。

2021 Highlights #01

Olimpic

reported by GAMI

TOKYO 2020 Olympic games

MAKOTO TOMIZAWA / YUKI SUNAGA



富澤慎と須長由季が、一年遅れで開催された東京オリンピックに出場した。開催国の代表としてメダルの期待も高かった二人は、何を想い、いかに戦ったのか？そしてレースを終えた今、何を思っているのだろうか？

ウインドサーファーにとってもウインドサーフィンがオリンピック種目である意識する瞬間は案外少ないもの。東京オリンピックの公式艇である「RS:X」に乗ったことがある人となると数えられる程しかいないはずだ。「RS:X」は、長さが 236cm、幅 93cm で 15.5kg のボードと男子 9.5㎡、女子 8.5㎡のワンデザインである。ウインドサーファーならこの道具で微風から強風まで、あらゆるコンディションでレースをすることがどれだけすごいことか想像

できるだろう。筆者は、ウインドサーフィンをしたことがない人にウインドサーフィンの説明をするときに、あえてウインドサーフィンはオリンピック種目なのだと話そうにしている。反応はほぼ間違いなく「えっ、そうなんですか?」というものだ。そして確実に見る目が変わる。ウインドサーフィンは、レジャーとしてはメジャーだし、体験人口はかなりのものだろう。それでもコンペティションとしては、マイナースポーツと言わざる

をえない。マイナースポーツにとって、オリンピックは 4 年に一度の晴れ舞台。その存在をメジャーにする最大のチャンスである。昨年、一年遅れで行われたオリンピックは地元開催。セーリングの会場は江ノ島である。代表は富澤慎と須長由季。ウインドサーフィンがオリンピックの公式種目となって 10 回目にして最もメダルの期待が高かった二人。

日の丸を背負った我々の代表の話を知ろう!!

16th
 **MAKOTO TOMIZAWA**

Profile

1984年7月19日生まれ 新潟県出身
 所属：トヨタ自動車東日本株式会社
 小学2年生のころに父親の影響で競技を開始。
 学連を経てオリンピックを目指す。北京大会で10位、ロンドン大会で28位、リオデジャネイロ大会の15位に続く4回目の出場。

富澤慎（以下：マコト）にとって東京は、北京から続く四度目のオリンピック出場となる。母国での開催に特別な思いはあったのだろうか？

「母国開催というか、自分が練習してきた鎌倉でできるっていうのが率直に嬉しいと思いましたが、決まってからは所属チームのトヨタを始め本当にみんなが全力で応援してくれる環境だったので、良いプレッシャーがありましたね」

リオの後、元メダリストのイギリス人、ニック・デンプシーをコーチに迎え、マコトの東京オリンピックに向けたキャンペーンはスタートした。これまでのオリンピックとは違い、自ら外国人コーチと契約したのは、東京で結果を出すため。そして、それは順調だった。2019年の世界選手権は10位。ワールドランキングは4位まで上がっていた。

「オリンピックでもメダルレースには十分残れるところにはいたので、まずは入賞の目標はクリアできるだろうという自信はあって、いろんなことが上手く、上手く回ればメダルも争えるのかな、なんて思っていたんですけど…」

しかし、それを支えていたのはコーチであるニックと海外を拠点にしてトッ

プ選手たちと練習ができる環境を前提にしていた。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大により世界は一変。東京オリンピックは一年の開催延期となった。それは、せっかく手に入れた練習環境が失われることを意味していた。オリンピックが近づくにつれ、SNSなどを通じてヨーロッパの選手たちが集まって練習している様子が伝わってきた。マコトは、何度か渡欧の計画を立てるも、当時の状況では日本からヨーロッパに渡って練習するなど許されるはずもなかった。完全に孤立してしまったのである。

「正直あの期間が…。自分なりに全力で頑張ったといえるけど、レベルとしては落としてしまった」

そうして迎えた1年遅れのオリンピックは16位。

「結果は目標に届きませんでしたが、これまでの活動を誇りに思っています。結果が伴えばもちろんベストでしたが、目標に向けて努力してきた過程は、自分にとって自信になり、達成感を感じる事ができたオリンピックでした」

RS:XからiQ foilに艇種を変更して開催されるパリオリンピックへの挑戦も

富澤慎



表明している。しかしその挑戦はこれまでとはちょっと違うようだ。

「東京までは結果だけを求めて、メダルを取るために、自分が上手くなるためにやってきましたが、iQになって世界に追いついていないことは明らかなので、これまでの経験を若手につなぎ、一緒に伸びていく。そっこのほうがブライオリティが高いです。世界での戦い方は、日本では僕しか知らないの」

最後に、マコトの背中を追う若者たちへのメッセージを紹介しよう。

「オリンピックはアスリートにとって最高の舞台です。大好きなスポーツで技を磨き、世界中のライバルや仲間と真剣勝負ができます。しかし、半端な気持ちで挑む事はできません。自分の人生の全てをかける必要があります。成功すれば大きな栄光が得られますが、さまざまな事を犠牲にしなければいけないのもまた事実です。ですが、犠牲にしたもの以上に素晴らしい経験が得られることを私は知っています。オリンピックを目指すには、人生をかけるという決断が必要です。しっかりと下積みをし、強い気持ちでプロアスリートの道を突き進めるよう準備をしてください」

12th
 **YUKI SUNAGA**

Profile

1980年12月28日生まれ 埼玉県出身
 所属：株式会社ミキハウス
 学連でウインドサーフィンをはじめ、卒業後ヨットの470級でアテネオリンピックを目指す。その後、北京からRS:X級に転向し、オリンピック初出場を果たしたロンドン大会では21位。

須長由季（以下：スナガ）にとって東京オリンピックは、ロンドンに次ぐ二度目の出場である。

「世界選手権のほうが人数が多く、レベルも高いですが、それぞれが国を背負って集まるという、4年に一度の緊張感が選手それぞれから伝わってきて、その独特の雰囲気がたまらないです」

一度経験しているからこそ感じるオリンピックの魅力。ロンドンでは思うような成績が残せず、もう一度オリンピックの舞台で戦いたいたいとリオを目指すも出場は叶わなかった。

「ロンドンのときは出場に焦点をあてたので成績が出せなくて当然。東京はやるとなったら成績が問われるし、自分自身も成績を出したかったので、リオに行けなかった原因や、自分に足りないものを考えて、東京で成績を残せる環境を作るために小菅寧子（北京オリンピック代表）さんにコーチをお願いすることにしました」

準備は順調だと思われた。スナガは、代表選考の過程で、世界のトップレベルの選手達とプレーイングレースでは全く互角の走りをしてきた。そして、オリンピック本番でも、そのポテンシャル

は発揮された。しかし本当はあんなものじゃない。微妙なズレを生じさせたのは、やはり1年の延期期間だった。「延期が決まったときは、わりとポジティブに捉えていました。2月の世界選手権で代表になって、半年でどこまで上げていけるかと考えていたときで、やらなきゃいけないことがいっぱいあるから延期は良かったと思ったんです。でも、実際は普通の1年じゃなかった。遠征には行けないし、外人選手は来れないし、孤独な1年で辛かったです」

それでもスナガはオリンピック本番、得意の風域で見せ場を作った。大会二日目、北風のプレーニングレースで、一上をトップ回航し3位でフィニッシュした。続くレースも5位。翌日も強風が予想されていて、上位入賞は間違いなかった。しかし…

「次の日はもうちょっと風速があったんですけど、南風でフれないからスタート勝負になってしまって、そうなるも苦しかった」

一年レースができなかった不安は、むしろ得意な風域で現れた。オリンピックでは有利なエンドからスタートを決め



須長由季

なければ勝負にならない。安定した強風域では特に。スナガは、そのための「カン」を失ってしまったのだ。

「オリンピックは、出るだけでは本当の戦いにはならないということです。メダルを獲れる、もしくはそこに絡める実力を持っていないと、戦っている自分が楽しめない。少なくとも決勝のメダルレースには出場したかったです」

悔しさの一方で、二度目だからこそ感じる手応えもあったようだ。

「肩の力を抜いて、全力で戦うことができたことが一番嬉しかった。ロンドンではそれができず、不完全燃焼なまま『こんなはずじゃなかった』という思いばかりが残ってしまったので。目標には届きませんでしたけどベストを尽くせました」

スナガもまたパリオリンピックへの挑戦を表明している。新艇種のiQ foilこそ彼女のポテンシャルが発揮されるのではないかと思うのだが、本人はどのように捉えているのだろうか？

「もう充分ベテランだし、次こそ出るのが目標というわけには行きません。世界で勝つことを強く意識した上で、私も背中を語り!? 若手を引っ張って、次の世代に繋げていきたいです」

TOKYO 2020





6th
Takara Ishii

歴史の転換点となるか!?
タカラ&タクマ



石井 孝良

2001年1月13日生まれ 静岡県出身
所蔵: RRD International/WAXXXX/
Soaddicted/Rejuration system/MilagroAG/
株式会社パイプライン / 株式会社榛原電業 / ON's
Company/BANDEI/SPY/OVERBOARD

できてすごく嬉しい。今までやってきた練習が世界に通用することがわかって自信につながりました。

タクマは、「今年の目標がPWAでトップ10だったのですごく嬉しい。特にカーボベルデで実現できたことが嬉しくて、周りからの反応もよくていろんな人に注目してもらえたと思います」と応えている。もちろん喜んではいるが、想定外の好成績というわけではなさそうだ。彼らは、世界の頂点を目指して練習し、試合に臨んでいるのだから。

一方で、カーボベルデのコンディションに関しては、「僕が今まで見た中で一番スリルがある場所だった」（タクマ）「ぶっちゃけめっちゃ怖かった」（タクマ）と口をそろえる。今まで味わったこと

8th
Takuma Sugi

世界最高峰の舞台で躍動す



杉 匠真

2002年7月23日生まれ 神奈川県出身
所属: GA sails/TABOU/Blackproject/
Maneuverline/ (株) パイプライン/グローバルアイ/satiworks/ オンズカンパニー /GarminJP/
SMITH/ マリンブルー

のないパワーの波。エアーすると下には岩が見え、巻かれたら即オンザロック! 大会の緊張よりも波に対する緊張が勝ったという二人だが、そんな中で写真のパフォーマンスである。

今年のPWAにすべて参戦するつもり二人は、すでに7月にグランカナリーのポッツで開催されるワールドカップに照準を合わせて調整している。

タクマは一昨年の骨折や膝の怪我が続き、ジャンプが怖くて楽しくない時期もあったという。しかし、世界一になりたいという大きな目標が彼を変えた。そして「多くの方にサポートしてもらっているので、それに対する責任感を持って常に練習している」と言う。メンタルにおいても、一流選手の仲間入りをし

たといえるだろう。

タクマは、「ポッツの世界カップが楽しみで、練習が楽しくて楽しくて仕方ない」、そして「子供の頃から負けず嫌いで、負けた時には、冷静になぜ負けたかを分析し、足りない部分を克服してきました」ということだ。だからきつとカーボベルデの結果からも、嬉しさとともに、彼だけがわかる克服すべき点を見つけているはず。ポッツが楽しみだ。

二人はまだ若い。頂点に立つにはまだ壁があるだろう。しかし二人の目は、頂点をしっかりと捉えているはずだ。



PWA World Tour 2021
Youth Wave World Champion



杉匠真が2021PWA ユースウェイブの世界チャンピオンとなった。近年ユースのレベルが上がり、シニアの中でもユースの存在感が高まっている中での戴冠である。

「1つの目標だったので嬉しいです。何をやるにも自信がついたっていうか、ウインドしてて安定性が出てきた気がします。今年の目標は、総合でトップ10入り。そしていずれは世界一になりたい」というタクマの今年の目標は、カーボベルデですでに達成された。次は……!

2022 SOMWR 10x Cabo Verde PWA World Cup

Date: Feb 20 - Feb 28 2022 Location: Sal, Cabo Verde

歴代の世界チャンピオンや気鋭の若手セイラーが集うPWAの舞台で、日本の若きエース二人が世界にはっきりとした爪痕を残し、頂点へのカウントダウンが始まった!!

カーボベルデは、大西洋の中央、アフリカの北西沖に浮かぶ火山群島である。マウイのアンブロ兄弟の弟、ジョシュ・アンブロがこの波に魅了され移り住んだことでも有名なポイントだ。

パーフェクトなレギュラスウェルのポンタ・プレタに世界最高峰のプロウエイパーが32名集まりPWAワールドカップが開催された。フィリップ・コースターやビクター・フェルナンデス、トーマス・トラベルサといった偉大なワール

ドチャンピオンや、今大会優勝したバート・ローディガーといった気鋭の選手に混ざり32名の中に日本人が2人名を連ねるだけでも今までなら十分快挙であった。しかし石井孝良（以下：タカラ）と杉匠真（以下：タクマ）の二人は、出場を目標とはしていなかった。本気で頂点を狙っていたのだ。

タカラはシングルエリミネーションヒート1で敗退したが、敗者復活戦では5ヒート連続で勝ち進み、最後に3位になったカミーユ・ジュバンに負けて6位。タクマはシングルエリミネーションで5位となったが、ダブルエリミネーションで順位を落として8位となった。

トップ選手として認められたと思うが? の問いにタカラは、「6位に入賞



reported by YUJI WAKIMOTO

Winner Norio Asano



15m/s を超える風とそびえ立つ波の中、
3年ぶりに成立した掛川クラシック!
アドレナリン全開のレースが行われた!!

JWA JAPAN TOUR 2021-22 SLALOM RANKING-Men

Rank	Name (Sail No)	Belongs	掛川
1	浅野 則夫 (25)	S2maui/FMX Racing/Quiksilver	1
2	中井 忠則 (121)	福澤クリニック /Goya/Mystic	2
3	工藤 輝 (9)	GA Sails/Tabou/Bug fins	3
4	山田 昭彦 (67)	Fanatic/Duotone/Prolimit	4
5	鈴木 智彦 (85)	RRD/Carlifauto/ 司企業株式会社	5
6	生駒 大輔 (21)	Sevenseas/ 福澤クリニック /Neilpryde	6
7	金上 颯大 (16)	Severne/Starboard/RASH Wetsuits	7
8	大館 弘 (1117)	Freaky/Tabou/Gaastra	8

Women

Rank	Name (Sail No)	Belongs	掛川
1	穴山 未生 (311)	S2maui/FMX Racing/Tears	1
2	佐伯 紗菜 (371)	Sevenseas/Neilpryde/JP	2
3	大西 富士子 (94)	株式会社ホマレ電池 /Fareast/Point7	3

第1戦は、風に恵まれずキャンセル。第3戦はコロナ禍による開催延期により2021-22シーズン唯一成立した掛川クラシック。この大会の成績が、そのまま年間ランキングとなった。大会の様子はこちら▶▶▶



トッププロでも一歩間違えると波に飲まれ戦線離脱してしまう激しいコンディションの中、2レースが成立。王者・浅野則夫が2レースとも貫禄のトップフィニッシュを決めるが、第2レースで2位となった工藤輝が総合3位と自己最高位。レディスも穴山未生がトップを守るが、女子高生セイラー佐伯紗菜が2位と健闘し、若手の成長が感じられる大会となった。



Winner Mio Anayama



脇元祐二

1960年9月8日生 鹿児島県出身
20歳でWSFを体験し、大学卒業後に本格的にハマリ、2年後には鹿児島シリーズ年間チャンピオンになる。翌年から宮崎のショップで働き、カスタムボード作りを学びながらイントラとなった。1年後に半年間オアフ島にてWAVE修行をし、帰国後に別府のショップで店長をしながらプロサーキットを転戦し始める。1年後に333人参加した別府湾横断レースで優勝し、WSF JAPANの開発員として台湾と栃木の工場働きながらプロを目指す。その後、湘南に拠点を移し、28歳でプロテスト合格。最高成績は2003年間ランク4位(RACING)、46歳で現役を引退。インストラクションにも携わり、協会の指導・検定関係や2008年に日本体育協会上級コーチ合格。前JPBA理事長、元日本プロウインドサーファー選手会会長。故郷島夏選手との映画「Life 天国で君に逢えたら」で、大沢たかお氏のレースシーンで代役をする。現在はWSF輸入元の代理店として活動中。

New Face 絶対王者 JPN-25 浅野則夫へ挑む若者たち

僕が46歳でプロを引退してから15年、当時のチャンピオン浅野則夫は、いまだにスラローム年間チャンプを誰にも譲っていない。浅野は以前カスタムボードメーカーと長年契約し開発にも携っていたので、道具のことを良く知っている。そして誰よりも練習をし、いまでもコンディションがハードになればなるほど他を寄せ付けない。女子もワールドツアーを転戦している穴

山や鈴木、そしてオリンピックも目指している大西や須長らが上位を独占している。世界に目を向けてもスラロームは、25回世界タイトルを取ったあのアントワン・アルボーがトップに君臨している。それだけ経験が必要で、若者がなかなか上位へ入れない競技、それがスラロームである。そんな日本のレースシーンに近年異変が起きている。「プロで戦うには10年はかかる」が持論だ

が、国内でも外人選手のように幼少の頃にWSFを始めた若者が、一気にレベルアップして上位に絡んできた。僕は引退してから大会を盛り上げたいとMCを続けているので、プロの頃に一緒に戦った選手や、新しく参戦してきた選手たちをレース中に客観的に観察している。そこで目に止まった若手選手を4人紹介したい。2022年、4人の走りに注目だ!



JPN-9
AKIRA KUDO
工藤輝

時折魅せる爆発的な走りが魅力の大型セイラー

2018年、奄美大島のサーキットで一気に名を上げてプロになった選手。学連、国体、そして一時期は五輪も目指したコースレーサーが、プレーニングの速さを活かせるスラロームにシフトした。レース経験は豊富なので、緊張感は見られないがミスが目立っていた。ただ時折見せる爆発的な走りは、いずれトップに絡む選手と感じていた。そして昨年の大分ではファイナルを2回走り総合7位、浜名湖では1Rでコースミスしたが、2Rは6位フィニッシュとファイナリストとして顔を連ねてきた。年末の掛川サーフスラロームで総合3位に入り、彼のポテンシャルがついに開花した。2レース目は浅野に次いで2位フィニッシュ。本人にもかなり自信に繋がっただろう。最近ではFOIL SLに力を入れ、津久井浜の大会でトップを取った。スラロームに特化した練習も今後の成績に繋がるので、他の選手とは違う練習アプローチでの成績が楽しみな選手。



自分がどこまで行けるのか、自分でも楽しみです!
1992年11月17日生まれ 東京都出身
所属: GA Sails/TABOU/BUGfins/F4foil/Brunotti/9a?
大学を卒業してから、国体選手、インストラクターとして競技へ注力。そして2022年4月からより良い環境を求めてフリーランスとしての活動がスタート。
2021年度プロスラロームランキング3位。



JPN-71
SANA SAEKI
佐伯紗菜

急成長を遂げサーキット優勝を狙うスーパー女子高生

数年前、奄美大島で行われたサーキットのファイナルで、吹いているのに大きいボードを選んでた。後で聞くとジャイブに自信が無いからとのこと、もちろんいい成績は残せなかった。ところがWAVEを初めてからはジャイブが変わり、小さい板でも安定し始めた。そして昨年の掛川サーフスラロームでは、波が大きくインサイドは安定しない風の中を、穴山に続きゲティングアウトしてアマチュアながら2レースともに2位でフィニッシュ。文句なしの総合2位で、自己最高のリザルトを残した。翌週の全日本アマチュアスラロームでも優勝。可愛い笑顔からは想像できない力強い走りをし、闘争心の塊と金上プロは言う。筋トレやGPSスピードにも力を入れ、FOILでの上位も目指してトレーニングしている。子供の頃から周りに各カテゴリーのプロやオリンピック選手に囲まれ、素晴らしい環境で練習を重ね、優勝を目指している注目の次世代レディス選手。



ジャパンサーキットで優勝を狙います!!
2005年3月9日生まれ 神奈川県出身
所属: Sevenseas/Neilpryde/JP/Maxim/ パワーライフスタジオ
小4で鎌倉 Jr.クラブに入門。すぐにレースに参加し始め、勝つ楽しさを知る。2021年アマチュアチャンピオンとなり2022年からプロ登録。セイルナンバーも71に変更し女子高生プロとして活動を始める。



JPN-16
SOTA KANAGAMI
金上颯大

ジャイブのキレが冴えわたる理論派大学生

昨年の冬、何人かの選手でスピードトライアルをするとのことで撮影をした。カメラ越しに走りやジャイブを観察すると、金上のジャイブの立ち上がりのタイミングとスピードに驚いた。レースに勝つには浅野のようなスピードも必要だが、立ち上がりのスピードが大きく影響すると常々思っていたので、この選手はいずれ上位に絡んでくるとその時に確信した。そして、それはわずか1カ月後、大分のサーキットで現実となった。3レースを4位、10位、4位で総合5位。高校3年生の若さで、この順位を走るの普通では考えられない。スタートをミスってもジャイブの度に順位を上げるシーンは思った通りだった。その実力は本物で、さらにその1カ月後に開催された浜名湖の大会でも総合4位。身長も伸び体重も増え、ジャイブの上手さにスピードが加わった。最近ではFOILのトレーニングも始め、五輪も視野に入れて両方でトップを狙う選手。



スラロームとiQの二刀流で頂点を目指します!!
2002年8月14日生まれ 神奈川県出身
所属: Severne/Starboard/RASH Wetsuits/Over Board/Seven Seas
小学1年、初めての大会でフィニッシュできなかった悔しさから本格的に練習をスタート。中学からプロツアーに参加。高校最後のプロツアーで5位入賞しプロ登録。2020年度プロスラロームランキング4位。



JPN-75
WATARU TAJIMA
田島航

サイパン育ちの全日本アマチュアチャンプ 日本から世界を目指す!

子供の頃からWSFを楽しんでいる姿をサイパンで観ていた。会うたびに上手くなっていき、毎年3月に開催されるマイクロネシアオープンでトップに絡むようになった。そして4年ほど前についに優勝。一緒に参加していたコングプロもその速さに驚いた。子供の頃から浜では物静かだったが、海に出ると負けず嫌いの性格なのか爆発的なパワーを見せていた。スラロームの練習に最適なサイパンのゲレンデと、セイリングセンターや先輩達のサポートや応援を一身に受けてレベルを上げた。そして日本に移住し積極的にレースに参加。サイパンでは1年に1回しかレースが無いので、日本で参戦するたびに経験値を上げ、順位も上がってきた。昨年の全日本アマチュアスラロームでは、全国から集まった猛者達を相手に優勝をもぎ取った。他の若手と同じようにFOILにも乗り五輪も目指す。英語が得意なため、海外遠征や情報収集が優位に立つ楽しみな選手だ。



世界で戦える実力を身につけます!
2000年6月1日生まれ サイパン出身
所属: 85CLUB/RRD/ アミノバルタ
父親の影響で、13歳の時にサイパンで始めたウインドサーフィンは、冬のシーズンに訪れる日本のプロ選手たちを追いかけることでメキメキと上達した。日本に拠点を移し活動を開始し、まずはアマスラで優勝してプロ資格を獲得した。オリンピックも視野に環境作りを進める逆輸入セイラー。



Winner Takara Ishii

2021 シーズン、ウェイブは行われた2戦いずれも石井考良&颯太兄弟によるファイナルとなった。二人の強みはどこにあるのか？ 同じ選手目線で白方優吏に分析してもらった。

プロになってから、タカラは世界を回っている波、風に乗っていて、いつの間にかほとんど海外なんです。僕が夏にマウイで合流すると、どんな波でもOKだよって準備万端なタカラが居るんです。日本では、ほとんど冬以外は乗れないので、少し慣らして自分のイメージと体の動きをリンクさせる作業が必要なんですけど、タカラは常に準備ができています。

それと、トレーニングの成果でデカくなってライディングにキレが増えました。そんな感じでいつの間にか不動の1位の座にいる彼ですが、弟のハヤタも同じように世界を回るようになり、昨年、秋のマウイから帰ってきたらめちゃくちゃ進化していました。僕がいうのもなんですけど、彼はセンスがあって、スケートやサーフィンもうまいですね。兄貴のタカラはウィンドー筋つ

て感じで、弟のハヤタももちろん一筋だけど、どの横乗りも行けちゃう万能系なイメージ。ハヤタのライディングは、フロー感がありつつクローズセクションでデカイのを狙ってくるんです。最近では3Dもヒート中にメイクするし、ジャンプのバリエーションもPWA選手バリです。でも、僕だって負けません。2022年も白方優吏に期待してください。

reported by YUSHI SHIRAKATA



白方優吏

1996年1月31日生 神奈川県出身
所属: Goya/O'Neill/Smithopries/ マニューバ
ライン/Sevenses/kakajincarcustom/Fuss
アスリートクラブ
テレビ番組のジャンクスポーツ出演や雑誌
(oceans, CanCam) やスポーツウェア (AddElm)、
Oneill ウェットスーツのライダー兼モデルも務める。
JWA 最高ランキングは2019年度3位。
IWT ランキングは16位。



Winner Motoko Sato

誰もが認めるレジェンド。マウイの大波でも素子さんビビって
るっていいながらも、しっかりチャージしてるし、日本の極寒
御前崎では、皆勤賞でしょってくらいに毎日乗っている。
努力をずっと続けてきていてメンズのプロライダーもみんな尊
敬する真のプロ選手です。

JWA JAPAN TOUR 2021-22 WAVE RANKING - Men

Rank	Name (Sail No.)	Belongs	COLD BREEZE	JAPAN 御前崎 CUP	Total
1	石井 孝良 (20)	RRD International/WAXXXX/Soaddicted	2100	2100	4200
2	石井 颯太 (27)	RRD international/Charis & CO./Websachi	2067	2067	4134
3	杉 匠真 (7)	GA sails/TABOU/Blackproject	2034	2034	4068
4	野口 貴史 (39)	Starboard Japan/Severne Sails/BGZ wetsuits	1968	2001	3969
4	小林 悠馬 (100)	Starboard Japan/Severne Sails/ 江戸一	2001	1968	3969
6	白方 優吏 (136)	Goya/O'Neill/Smith Opries	1902	1935	3837
7	吉武 雅博 (134)	Sevenses/GA Sails/TABOU	1902	1836	3738
7	野口 颯 (3900)	Starboard Japan/Severne Sails/BGZ wetsuits	1836	1902	3738

Women

Rank	Name (Sail No.)	Belongs	COLD BREEZE	JAPAN 御前崎 CUP	Total
1	佐藤 素子 (0)	Starboard Japan/Severne Sails/Dakine	2100	2100	4200
2	笹尾 香南 (8)	Goya/F-wave	2067	2034	4101

New Face 世界で活躍するタカラ&タクマを猛追！ ウィンド一家に

生まれ育った二人のティーンエイジャー

プロ初年度をランキング2位で終えた石井颯太

プロ1年目の石井颯太(以下:ハヤタ)は、行われた2つの大会でいずれもグランドファイナルに進出した。相手は2度とも兄タカラで、2度退けられた。しかしその差は、パフォーマンスの差

というよりコンテストにおける経験の差だと感じた。世界6位を相手にである。本人曰く、兄に勝つのは「来年、いや今年かも」。コロナ禍によりプロ戦が行われなかった期間に最も成長していたのは、ハヤタだったということだろう。「自分の夢だった世界の頂点が、子どもたちの夢になって嬉しい」と笑う父、石井久孝によれば、「兄はイケイケタイプで大きな波にも向かっていって実力以上のことをやるタイプです。ハヤタは慎重で、大きい波に対してステップ



石井 颯太
2005年5月16日生 身長167cm、体重50kg
所属: オンスカンパニー、Charis & CO、RRD
インターナショナル、K4 FIN、(株) K's ビルド

を踏んで、ちょっとずつ自分の中でいけるいけないを判断してやっていますね」とのこと。コンテストを見る限りハヤタもかなりのイケイケだが...

ハヤタの目標は、当然ワールドカップ優勝。そして憧れのトーマス・トラベルサのように世界中のスポットを廻ること。10年後の自分に一言の問いに「仕事見つける」と応えたが、きっと世界を回ることが仕事になっているはず。ハヤタのライディングからは、そう思わせるスケールを感じざるをえない。



タカラとハヤタ、二人の父はウェイブとフリースタイルで日本一になった石井久孝。最強のサラブレッドだが、技術的な指導はしないのが才能を伸ばす秘訣とか。



野口 颯
2007年4月21日生 身長171cm、体重59kg
所属: Starboard Japan/Severne Sails/ ブラックプロジェクト FIN

最年少でアマチュア全日本チャンピオンとなった野口颯。

JAPAN 御前崎 CUP での目標がダブルループ完着だったという脅威の15歳・野口颯(以下:リュウ)。今年の1月にアマチュアチャンピオンの最年少記録を更新したばかりだ。

父、野口貴史は50歳となった今も現役プロとして活躍しており、今シーズン行われた2大会でいずれも親子対決が実現した。日本はもちろん世界でも稀有な

例だろう。そして父は二度とも息子を退けた。父にとって息子との対決は、一つの目標だったというが、その実現は予想よりも少し早かったようだ。次の目標は「息子に負けるまでやり続ける」こと。その日はいつ訪れるのだろうか? 最強のサポーターである父が、最強のライバルでもある環境が、リュウを父の予想よりも早く成長させているに違いない。「小さい頃から父はカッコいいなと思っていました。でも今はライバル、敵として見ています」と中々の闘争心をみ



ヒート中、息子の波乗りを振り返って見つめる父。今年成立した2試合でいずれも実現した親子対決は、いずれも父が息子を退ける結果となった。急成長する息子の目にオヤジの背中はどうに写っているのだろうか?



野口 颯
JPN-39
RYU NOGUCHI

2021 Highlights #05
Free Style

reported by MITSU HARU NIJIMA



中学生プロ・守谷拓海! 2021-22 シーズンを制す!!

フリースタイルは、逗子・津久井浜・浜名湖と3戦が成立し、若干15歳の守谷拓海プロが年間ランキングトップに輝いた。新たなヒーローの誕生だ!!

小林悠馬競技委員長に聴く 2021-22 シーズンフリースタイル事情!

▶ 2021年度、ズバリ誰が1番すごかったですか?

小林 技術的には杉匠真プロがやっぱりレベルが高かったんですが、肩を並べる位、守屋拓海プロが急激に成長してきました。まだ中学生なので、これからの伸びを注目していきたいですね。

▶ 現在、日本のレベルは世界とはまだまだかけ離れていると思いますが、どうやって世界レベルに近づいていこうと考えていますか?

小林 世界レベルのパフォーマンスは、スピード、高さ、回転数全てにおいて年々凄さを増しています。強風の中でセイル・ボードを確実にコントロールするために、技術の習得は当然のこ

とながらフリースタイルに必要なフィジカルトレーニングも重要になってきます。

今年、杉プロや守屋プロが世界の舞台へ挑戦します。フリースタイルの選手は守屋プロの他にも津野健介プロ、池照貫吾プロのように多くの10代、20代前半の選手が活躍しています。海外遠征組が世界で学んだ技を国内大会で披露し、それを他の選手たちが学んで、全体でレベルアップしていければと思っています。世界に多くの選手が挑戦していくことが重要です。

JWA JAPAN TOUR 2021-22 FREE STYLE RANKING

Rank	Name (Sail No.)	Belongs	逗子	本栖湖	津久井浜	浜名湖	Total
1	守屋 拓海 (171)	ヤマハ発動機 / Severn/Barleigh Heads	1530	0	1671	1530	4731
2	津野 健介 (771)	JP/Neilpryde/Kaya	1276	0	1530	1434	4240
3	小林 悠馬 (100)	Starboard/Severn/Lucky Island	1434	0	1350	1276	4060



小林 悠馬
1991年4月18日生 神奈川県出身
所属: STARBOARD/SVERNESAILS/ グローバルアイ/築地江戸 / ON'S SURFSUITS/ ZEN NUTRITION/mundo/CB SURFERS/Zushi Windsurf School
選手でありながらフリースタイル競技委員長も務める。早くから世界を目指しワールドカップに参加。その経験と技術を国内で披露し、それに刺激を受けた若手が続々と育っている。



確実にポイントを積み重ね自己最高の年間ランキング2位となった津野健介。ホーム逗子で小林悠馬に刺激を受けた一人。



悠馬チルドレンともいえる若手の台頭に苦戦を強いられランキング3位となった小林悠馬。2022シーズンの巻き返しに期待だ。



Winner Takumi Moriya

新チャンピオン守屋拓海インタビュー

静岡県浜名湖は御前崎と同じように西高東低の気圧配置が決まると強い西風が吹く。守屋拓海は父親である守屋慎二氏が経営するウインドファーフィンショップ『ウインズ171』がある浜名湖の村櫛海岸をホームに腕を磨いた。

拓海がウインドを始めたのは小学1年生の夏。1年後にはプレーニングを覚えた。『海上で飛んで回る格好良さに魅力を感じたから』とフリースタイルを始めると、2019年、13歳にしてJWAプロ資格を取得し、史上最年少のプロウインドサーファーとなった。

そしてこの年、拓海は世界に挑戦した。8月にスペインで開催されたPWA

フリースタイル選手権のU15クラスで初出場初優勝。世界チャンピオンとなった。この快進撃を支えるのは『平日は放課後1時間ほど、休日は、4、5時間』という抱負な練習量だろう。

2022年の目標は『PWA フェルトベンチュラワールドカップのU17クラスに参戦して優勝すること、そしてJWAのフリースタイル競技でも優勝すること』と日本だけでなく、その目ははっきりと世界を見据えている。ワールドカップになるために『毎日夜30分間の英会話をしています』というのだからただ憧れているというレベルではない。将来も見据えている。10年後の目



守屋拓海
2006年8月24日生 静岡県出身
所属: ヤマハ発動機 / SEVERNE SAILS/Barleigh Heads/ONEILL/ (株) 遠州楽器制作 /Newtec Corporation/ (株) TAKUMI/WINDS171
小学4年の2017年3月にJWA 浜名湖フリースタイル選手権でBクラス1位を取り、その2年後、2019年にスペシャルクラス3連覇しプロ資格を取得。2020年からプロとして活動を始めた。

標は『PWAのワールドチャンピオンになって、より多くの人にウインドサーフィンを知ってもらいたいこと』。10年後でもまだ25歳。センスと努力を怠らない勤勉さを併せ持つ拓海なら世界の頂点も十分に狙える予感がする。頑張り守屋プロ!!

フリースタイル観戦のススメ

フリースタイルの競技は、ビーチ近くで派手な技が繰り出されるので、見どころ満載!! 技の名前なんか知らなくたって、凄さは必ずわかります。しかも幅広い風域で成立するためハズレ無し! フリースタイル観戦してみませんか?

フリースタイルの競技は、フィギアスケートのように選手が繰り出す技の難易度や完成度をジャッジが採点し勝敗が決まる。競技時間は、コンディションによって7分~10分程度で設定され、1対1で対戦し、勝者が勝ち上がるトーナメント方式進行する。

プロの大会で中風から強風のコンディションではジャンプトリックが主で、スライド系と3D系の2つに分類される。スライド系は水面を滑るように回転するトリックで、3D系は空中でボードやセイルを回転させたり、ひねりを加えたりさせて回転が複雑に絡み合う

トリック。コンディションに恵まれれば、「訳わかんね〜」「何回転したの?」と見るだけで興奮するアクションが繰り広げられる。風が弱くてもセイルやボードを回転させるオールドスタイルのトリックを競う競技が行われるのもフリースタイルならではの。見どころ十分!!



JWA JAPAN PROTOUR 2022-2023 FREESTYLE 大会情報

【第2戦】
TRICK' N TRY MOTODSUKO 2022
5/28-29 山梨県本栖湖ファンビーチ

【第3戦】
全日本フリースタイルトーナメント
津久井浜大会
11/5-6 神奈川県横須賀市津久井浜

【第4戦】
浜名湖フリースタイル選手権 2022
12/17-18 静岡県浜名湖村櫛海岸



The 19th Asian Games Hangzhou 2022

アジア競技大会 代表決定

池田健星と新嶋莉奈の二人が、9月に中国・杭州で開催される第19回アジア競技大会の代表に決定した。4年に一度開催されるアジア競技大会においてウインドサーフィンは、今回からパリオリンピックにも採用されているiQFOILで争われる。

代表選考は昨年11月に大分で行われた全日本選手権と2月に行われた

iQFOIL アジア競技大会代表選考会の総合ポイントにより決定した。

アジアのオリンピックともいわれるアジア競技大会。過去には、国内ウインドサーフィン草分けだった故石渡常原氏が、1982年の第9回大会で金メダルを獲得している。当時は、ウインドグライダークラスで争われ、なんとノーハースだった。それ以後はウインド

サーフィンではメダルが取れていない。今回はiQFOILになって世界大会に一度も参加していない中国チームの動向も注目される。代表の二人は、2014年ユースオリンピックの代表選手であり、共に7位の成績。2020年には全日本学生選手権優勝などともに結果を残してきている。アジア競技大会でも、上位入賞を期待したい!

初出場ですが、持ち前のスピードを活かしメダルを獲得できると確信しています。2024年、フランス・マルセイユの海で歓声に包まれながらセーリングする自分の姿を普段よく妄想しています。これが現実となるよう日々課題と向き合い着実にステップアップしていきます! セーリングといえば池田健星、そう思って頂けるよう皆さんの記憶に残るセーラーになります!



池田 健星 (いけだ けんせい)
1998年12月21日生まれ / 神奈川県出身
明治大学卒業
所属：三重県スポーツ協会 / マネージメント Boombox (株)
スポンサー：ジェイウエル・パートナーズ / HELLY HANSEN JAPAN / GoPro Japan / MYSTIC
逗子の KAYA で8歳のときにウインドサーフィンを始める。全日本ジュニア選手権5連覇、全日本高校生選手権3連覇。2014年世界選手権 U17クラスで5位入賞。高校1年でユース五輪7位。2016年18歳でナショナルチームに入り、東京オリンピックの補欠選手に選ばれる。2020年全日本学生選手権優勝。2021年 iQFOIL 全日本選手権優勝。



Instagram

アジア大会の目標はメダル獲得です。シニアの日本代表として大会に出るのは初めてですが気合十分! パリ五輪に向けても重要な大会です。弱点であるフィジカルをしっかりとトレーニングし、4~5月の海外遠征で世界のトップ集団に入れる実力を身に付けて、アジア大会につなげていきます。



新嶋 莉奈 (にいじま りな)
1999年11月13日生まれ / 神奈川県出身
慶應義塾大学卒業
所属：エリエール
スポンサー：YANAGIYA / 伊藤園 / オニール / SMITH / Magic Marine / メダリスト
4歳でウインドサーフィンにトライ。小学1年から鎌倉ジュニア WSF クラブに所属。全日本ジュニア選手権6連覇。2014年中学3年でユース五輪に最年少出場し7位。2015年アジア選手権 U17クラス優勝。2016年、2017年の ISAF ユースワールド日本代表選手として2大会連続出場(2017年 / 6位)。2020年全日本学生選手権優勝。2021年 iQFOIL 全日本選手権優勝。



Web site



JWA JAPAN PROTOUR 2022-23 FOILFORMULA #1

2022 HOTEL LOCAL BASE CUP

Date: Feb 24 - Feb 27 2022
Location: Miyakojima, Okinawa



LOCAL BASE

大会の様子はこちら▶▶



JWA プロツアーの初戦は、JWA プロだけでなく、パリオリンピックを目指す iQ セイラーも多数参加し宮古島で開催された。12レースが成立し、男女ともアジア競技大会代表の池田、新嶋が優勝し、東京オリンピック代表の富澤、須長が後に続いた。オープンクラスのダウンスラロームでは JWA プロとしても活躍する穴見が優勝。今大会で活躍した上位入賞選手を紹介しよう。



倉持 大也 (くらもち だいや)
所属：福井県スポーツ協会
昨年末、左肘の脱臼という大怪我を負い、一カ月以上練習できない状態から復活。まだ本調子ではないもののアップウインド、スラロームともに3位入賞した。



穴見 知典 (あなみ ともりのり)
所属：(株) ライテック / ゆうこうマリン (株) / スターボードジャパン (株) / (株) ウトバラ
JWA プロとして活動しながらパリオリンピック出場を目指す。今大会、スラロームでは、5レース中4レースでトップフィニッシュし優勝。



小嶺 恵美 (こみね めぐみ)
所属：FS エンジニアリング (株)
学連、国体、RS:X と多くの優勝経験を持つ。特に軽風域では世界に通用する実力を持つ。今回も風が弱くなった後半のレースで3レース連続でトップフィニッシュという追い上げをみせ3位。



山辺 美希 (やまべ みき)
所属：(株) サガミ
オリンピックを目指すかわら JWA のスラローム競技にも積極的に参加。今大会はスラロームで準優勝。アップウインドは後半順位を落として5位となった。



大西 富士子 (おおにし ふじこ)
所属：(株) ホマレ電池
直前に行われたアジア競技大会代表選考第2戦で優勝して宮古島に乗り込んだが、アップウインド4位、スラローム3位と本来の実力からするとやや不本意な結果か?

FOILFORMULA Windsurfing Men

Rank	Name (Sail No.)	1R	2R	3R	4R	5R	6R	7R	8R	9R	10R	11R	12R	Total	Net
1	池田 健星 (5)	1	1	1	2	1	1	1	2	4	2	1	2	19	13
2	富沢 慎 (11)	4	2	3	1	2	2	2	1	2	1	2	1	23	16
3	倉持 大也 (54)	3	7	2	3	4	4	4	3	6	5	3	6	50	37
4	穴見 知典 (60)	2	3	11	4	3	3	5	11	9	4	6	5	66	44
5	金上 颯大 (16)	5	4	5	6	7	7	9	5	3	6	8	4	69	52
6	国枝 信哉 (22)	8	5	9	11	9	8	8	6	1	3	5	3	76	56
7	穴見 賢太 (6)	6	11	4	7	6	6	3	4	11	9	4	7	78	56
8	田島 航 (75)	7	6	6	5	5	5	6	10	12	7	7	10	86	64

FOILFORMULA Windsurfing Women

Rank	Name (Sail No.)	1R	2R	3R	4R	5R	6R	7R	8R	9R	10R	11R	12R	Total	Net
1	新嶋 莉奈 (4)	1	1	1	1	1	1	4	4	4	4	3	3	28	20
2	須長 由季 (470)	2	2	5	3	3	3	3	3	5	1	2	1	33	23
3	小嶺 恵美 (72)	3	5	2	4	2	5	1	1	1	2	6	4	36	25

Windsurfing FOIL Men

Rank	Name (Sail No.)	1R	2R	3R	4R	5R	Total	Net
1	穴見 知典 (60)	1	1	1	1	3	7	4
2	富沢 慎 (11)	2	2	4	2	1	11	7
3	倉持 大也 (54)	4	4	2	4	2	16	12
4	池田 健星 (5)	5	5	3	3	4	20	15
5	金上 颯大 (16)	3	3	8	8	7	29	21
6	山田 昭彦 (67)	6	6	5	6	10	33	23
7	田島 航 (75)	7	8	7	5	6	33	25
8	賀来 耕一郎 (28)	8	7	6	9	8	38	29

Windsurfing FOIL Women

Rank	Name (Sail No.)	1R	2R	3R	4R	5R	Total	Net
1	新嶋 莉奈 (4)	1	1	6	1	3	12	6
2	山辺 美希 (31)	2	2	4	2	1	11	7
3	大西 富士子 (94)	4	3	2	3	2	14	10

学連活動報告&レーサーズファイル

学生スポーツの集大成であるインカレ個人戦&団体戦や大学に入学してウインドを始めとした1年生が練習の成果を試す新人戦など、年間を通じて活動しています。今回は団体戦と学連を代表する精鋭チーム「学連ナショナルチーム」のメンバー紹介を中心にお伝えします。

学連とは？

関東、関西、中四国、九州、沖縄にある45大学、学生数約600人が加盟する学生組織。正式名称は日本学生ボードセーリング連盟（JUBF）で、学生スポーツとして、健全に活発に活動し、日々切磋琢磨しています。使用艇は、Techno 293。293×79cmのダガー付きボードと7.8㎡のセイルでどんなコンディションでも頑張っています。そんな学連のレース活動や活躍しているメンバーを紹介していきます。

学連レーサーズファイル Racers File

毎年、全国の学連メンバーの中から選考会を勝ち抜いたメンズ6名、レディース2名が、「学連 National Team（以下「NT」）」として1年間活動します。NTは、海外の大会に通用する選手を育成し、学連よりオリンピック選手を排出することを目的に1992年に発足しました。年間を通じ講習会を行ったり、国際大会に出場したりと学連レーサーの顔として学連の存在をアピールしています。

2022年度NTに選出された8人の選手を紹介します！



①岡本 大成 ●慶應義塾大学(15-21)
目標：団体戦、個人戦での優勝。
NTとして一言：最後の1年間、個人の成績だけでなく、団体の結果にもこだわってやりきります！

②内藤 紳之介 ●明治大学 (46-93)
目標：個人戦優勝と最強のチームを育てあげることです。
NTとして一言：NTメンバーとして、憧れの存在となれるよう頑張ります。

③倉鹿野巧 ●神奈川大学 (8-1)
目標：個人戦優勝、団体戦の団体入賞、個人優勝。
NTとして一言：キャプテンとしてプレッシャーを感じますが、理想を目指して学生生活のラスト1年間、全力で取り組んでいきます。

④谷岡 翔太 ●京都大学 (12-0)
目標：悲願の団体戦優勝です。
NTとして一言：真面目にがんばればがんばるほど、技術が全然上達しなかったり、メンタル的にしんどくなることもあると思うので、いつでも相談してください！

⑤藤原 海 ●同志社大学 (35-54)
目標：インカレ個人戦で表彰台（3位以内）です。
NTとして一言：お世話になった先輩方に恩返しができたらと思います。同志社主将としても、関西選手権3連覇の目標に向けて総合力向上に努めています。

⑥田中 翔 ●明治大学 (46-4)
目標：個人戦表彰台、団体戦優勝です。
NTとして一言：憧れだったNTになることができたのですが、通過点です。これからはNTの名に恥じない走りをして、あこがれる存在になりたいです。

⑦北原 史野 ●京都大学 (12-5)
目標：個人戦・団体戦共に優勝することです。
NTとして一言：少しでも貢献できるように、1年間がんばります！ よろしくお願ひします！

⑧元木 千乃 ●慶應義塾大学(15-17)
目標：個人戦で表彰台に立つこと、団体戦で優勝を飾るためにチームに尽力することです。
NTとして一言：大好きな学連全体を盛り上げるために尽力します。女子委員長で培った経験をメンバーとのチームワークでも活かしていきたいと思っています。

2021年度 全日本学生ボードセーリング選手権 大学対抗戦

Date: Mar 11 - Mar 13 2022 Location: ナショナルセーリングセンター / 和歌山

各大学ごとに選考された5名の代表から各レース3名が出場し、その各選手の順位の合計ポイントを大学のポイントとして順位を競います。ウインドサーフィン個人競技ですが、普段から部として、チームで活動している私達にとって、とても重要で、もっとも燃える大会です。今年は全国26大学が集まり母校の名誉を懸けしのぎを削りました。



- RESULT**
- 優勝 明治大学 (三浦・相沢・中島・田中・内藤)
 - 準優勝 関東学院大学 (関・池田・東田・吉浜・永田)
 - 第3位 京都大学 (来海・山本・谷岡・谷口・谷上)
 - 第4位 大阪大学 (石川・安房井・西田・國司・香川)
 - 第5位 慶應義塾大学 (岡本・阿部・新嶋・三寺・松永)
 - 第6位 同志社大学 (新矢・松浦・齋藤・藤原・矢次)

Pick Up 今大会で活躍し引退する選手のコメントを集めました！

池田 拓海 ●関東学院大学
昨年の個人王者ということもあり、プレッシャーはありました。しかし、スーパー同期に負けたくないという気持ちや、直接メッセージをくださったり、応援してくださったりしたOBさんなどの力が、自分の闘争心を保ち続けてくれました。

三浦 圭 ●明治大学
5人全員が出場して優勝したことは今までないと思います。そんなチームを主将として引っ張って行くのは難しく、キツかったですが、全員が協力してくれたおかげでチームがまとまりました。全員で勝ち取ったこの優勝を誇りたいと思います。

来海 峻 ●京都大学
京都大学は3位。個人では準優勝でした。僕がこれまで背中を追いかけてきた先輩方がそうであったように、個人の順位より団体優勝が一番の目標とされていたので、悔しいです。来年こそは、後輩たちが団体優勝を成し遂げてくれると信じています。

石川 慎之助 ●大阪大学
意識的に練習してきた風域で練習の成果を発揮し、トップ争いをする事ができた事に満足しています。また、同じ場所で練習していた他大学の後輩たちが自ら出艇・帰着を手伝ってくれ、応援してくれました。大学の垣根を越えたつながりを感じました。

宮山 拓 ●保健福祉大学
心の中で、ずっとウインドサーフingは個人のスポーツだと思っていました。でも誰かのために走るレースができたこの二日間、団体戦の意味を知り、今までにない幸せなウインドサーフingを味わうことができました。ありがとうございました。

中島 理幾 ●早稲田大学
昨年からの結果をみると着実に順位を上げてるので、早稲田ウインドサーフing部の成長を感じることができ嬉しかったです。自分を含め、4年生が色々な部活の組織化に取り組んで、早稲田を強豪にする改革が無駄ではなかったと思えました。

OB 訪問 vol.1



高津 一晃 さん

慶應義塾大学卒業
東京建物不動産販売株式会社勤務

2012年 慶應義塾大学環境情報学部入学
2014年 学連委員長
インカレ個人戦 7位
2015年 学連ナショナルチーム キャプテン

学連時代に、ウインドサーフィンに青春を捧げた後、社会人として活躍しているOBOGを訪ねます。

▶ウインドサーフィンをやったことは何ですか？

学生生活4年間で一つのことに集中して取り組んだという経験と、そこで得た幅広いコミュニティです。ウインドサーフィンという一つのスポーツと真剣に向き合ってきた猛烈な達成感や爆発的な楽しさといった経験は、他では味わえないものだと思います。またその経験の中で出会った学生時代を共に過ごした全国の仲間や、社会人の先輩である各艇庫にいるウインドサーファー、世界選手権で出会った海外選手など、普通の学生生活では繋がることはできないであろう貴重なコミュニティは社会人になった今でも公私共に私の財産と

なっています。

▶後輩の面倒を見るようになった理由を聞かせて下さい。

後輩の面倒を見ているというより、一緒に練習に参加させてもらっているという方が近いと思います。学連のいいところは、学生自らが動いて連盟の運営をしているところ。各大学も監督など大人が練習メニューを決めているのではなく、一生懸命自分たちで練習メニューを考えています。それに対して私が口出しをするというのはあまりありませんが、何か学生だけでは解決できないような問題があった時には率先して動くよう考えております。

サーファー艇、ミミより情報!!

なぜ今サーファー艇? サーファー艇って何? 楽しいの?
そんな疑問を解決できるよう、さまざまな情報をお届けします。

1980年代、ウインドサーフィンといえばウインドサーファー艇だった。誰もがサーファー艇に乗り、クルージングし、レースをし、波に乗ることもあった。時は流れ、ウインドサーフィンはかつて考えられなかったスピードで走り、想像し得なかったマニューバーを刻んでいる。結果、ウインドサーファーはエキスパートになるほどスラロマーやウェイバーなどと呼ばれるようになった。それは道具の細分化が進んだ結果であり、ウインドサーフィンの可能性を広げた一方で、古き良きウインドサーファーを海から遠ざけた側面もあったのではないかと感じるのは私だけだろうか? そんな状況を打破するのは? なんて思いとともに、2018年にリニューアルしたサーファー艇情報を私「ミミ」がお伝えします!!

鮮やかな青いデッキパッドが心地良いボードと、5.7㎡と身体に優しいセイルで、微風から強風域までカバー。そのシンプルさから初心者はもちろん、家族でのレジャーや、セイルを外してSUPボードとしても使用できるほか、レース艇として真剣に競技を楽しむことだってできる。それもそのはず。かつては「ウインドのレース」といえば、サーファー艇でのレースを指していたのだから……

サーファー艇が復活した事を聞きつけて、私を含め往年のセイラーたちが、ここ数年、次々と海に復活してきた。そして各地で大会も開催され始めた。

2018年、19年の冬には、タイ・パタヤで国際大会「Siam Cup (サイアムカップ)」が開催され、オーストラリアや、イタリアなどの欧州選手をはじめ日本からも多数の選手が参加。一度はウインドから遠ざかっていた仲間が集結し、盛り上がりを見せた。

タイ・パタヤのビーチフロントの高級ホテル Movenpick の協力もあり、なんとサーファー艇の新艇を現地でチャーターできる「手ぶらでリゾートレース」を堪能できた。

2019年には、イタリア・ガルダ湖で世界選手権が開催されると聞き、夏休みの息子を連れて行くことにした。大会参加に向けて練習するなか、日本テレビ「所さんの 笑ってコラえて」の密着取材を受けることになり、23年ぶりに挑む世界選手権は、テレビクルーと共に現地入りすることになった。参



世界選手権「Team Japan!!」

reported by MIE TOYOOKA

豊岡 美枝

(旧姓:田嶋 / 愛称:ミミ)
1968年12月生
東京都出身。

1984年15歳でウインドサーフィンに出会う。1986年17歳で、当時史上最年少でウインドサーフークラス全日本選手権優勝。ジャパンサーキットなどの国内大会に参戦したのち、20歳でJOC強化指定選手としてオリンピック艇種で世界転戦をはじめ、1990年の北京、1994年の広島で開催されたアジア競技大会に日本代表として出場し入賞。1996年イタリアで行われたウインドサーフークラス世界選手権で優勝。2000年~2003年の間、東京都代表として国体に出場。その後、出産育児を経て2018年、サーファー艇のオーナーとして選手活動を再開。現在は選手活動の傍ら、日本ウインドサーフィン協会の理事としてウインドサーフィンの普及、発展に務める。



加選手は、往年の名選手からイタリア代表の14歳の女子選手や、オリンピック選手などさまざま。当然ながらみんな同じサーファー艇に乗る。この大会、私はなんと銀メダルを獲得することができ、テレビクルーを引き連れた面目躍如。その模様は全国に放映されたのでした。

こうして再びサーファー艇の大会が国内外で盛り上がり、年齢を問わず楽しめるようになっていった。国内のイベントも少しずつ増え始め、一昨年秋より神奈川県江ノ島で「ウインドサーフークラス全日本選手権」が開催されるようになった。

2021年は、新型コロナウイルス感染症の影響が色濃く残りながらも、各地でいくつかの大会が開催された。中でも全日本は、私にとって連覇がかかる大会。出場選手は元チャンピオンがずらり。最年長はなんと70歳の金光さん。東京オリンピックが行われた海面で7レースが行われ、総合優勝の連覇こそのがしたものの、女子優勝を勝ち取ることができた。

次号では、その大会で見事男子優勝に輝いた作野選手に、お話を伺います。

reported by MITSU HARU NIJIMA



2021年度 JWA TECHNO293 ジュニア・ユース全日本選手権

Date: Mar 19- Mar 21 2022 Location: 室積海岸 / 山口

日本一速い中学生、高校生は誰だ?

今年で10回目を迎えるジュニア・ユースの全日本選手権。テクノ293クラスのワンデザインレースが山口県光市室積海岸で開催された。

世界選手権も毎年行われ、国内では学連の公式艇でもある。ワンデザインクラスとして世界的に最も人数の多いクラスだ。ここで鍛え抜かれた選手が大学生になると、学連のスターになる。




リオオリンピック代表・伊勢田愛さんからのアドバイス






中高生は身体が大きくなる時期なので、いかにボードに体重を乗せずに走れるかが求められ、身体の成長と道具や乗り方を合わせるのが必要です。コースレースでは、次の3つを心がけて練習してください。

1. 漕ぐ力
2. いかに速くマークに行くか=最短距離を走るか
3. 海面見ていかに良い風を掴むか
そしてコンディションにあった走り方をマスターすることが重要です!


中学生クラス男子

- 1  **大島 拓巳**
カントリーハーバー
中学最後の大会で優勝できて嬉しいです高校でも連覇を狙います。
- 2  **小山田 柁平**
鎌倉ジュニアWSFクラブ
次の目標は、伊勢湾カップの入賞です。
- 3  **宮前 桂月**
福岡セーリングクラブ
10位以内を目標にしていたが、思ったよりも結果が出てよかった。


中学生クラス女子

- 1  **大島 珠莉**
カントリーハーバー
全中で、総合優勝できて良かったです。次はオールピンを目指します。
- 2  **村岡 美空**
鎌倉ジュニアWSFクラブ
大会の成績に相応しい選手になる事を目標にします。
- 3  **占部 心美**
福岡セーリングクラブ
課題も見えましたが、これまでの成長を感じる事ができました。

プラス高校生クラス

- 1  **村岡 澗**
Sevensense
多人数でのレースは久しぶりだったので楽しめました。

高校生クラス

- 1  **林 つくみ**
山口ジュニアアスリートアカデミー
下松高校
オリンピックでのメダル獲得を目指してこれからもがんばります。



OVERBOARD

北島 清隆 Kiyotaka Kitajima
1966年生まれ 東京都出身 1986年にマリンスポーツのインストラクターとして八重山諸島の小浜島を訪れた際その美しい自然に魅せられ東京から移住。NHKドラマちゅらさんで有名になった小浜島で17年間暮らし、現在は石垣島在住。沖縄の島々を中心に南の島々、海と空の彩りをテーマに風景や水中、リゾートイメージなどの写真や映像を撮影。作品は広告やポスター、雑誌、Web、写真展などで発表している。主な作品集に「Ishigaki is」「秘密のスポットガイド」がある。日本広告写真家協会正会員。



海の条件が良い時はこのバックに一眼レフカメラを入れて 景色の良いところや、誰もいないビーチ、アウトリブまでSUPで撮影に行ってます。

ロックが3箇所あるのでより安心できます。サイドポケットにドリンクホルダーもあり、フィンやマスクをドローコードに縛ってシュノーケリングに行くこともあります。

【使用アイテム】
トレックドライ バックパック 30L

< 移転しました >
株式会社ウインドサーフィンジャパン
add: 沖縄県国頭郡国頭村鏡地 310 番地
tel: 0980-43-7967 fax: 0980-43-7968
mail: customer@windsurfing-japan.com

Topics #1

from KAMAKURA
reported by TSUNEAKI TAKAGI (海洋科学高校教諭)

神奈川県立海洋科学高校 ウインドサーフィン部設立!

本校は昭和15年に設立された神奈川県水産講習所から三崎水産高校を経て、80年の歴史があります。平成2年から一部の生徒がマリンスポーツ実習の中でウインドサーフィンを体験していましたが、道具の購入や保管など、生徒にも学校にもハードルが高く、なかなか部活動として取り組むことはできませんでした。それでも思いは通ずるもので、実習を依頼していた鎌倉のセブンシーズさんの協力を得て、令和2年にウインドサーフィンサークルを設立することができました。

ウインドサーフィンは刻々と変化する風を捉え、瞬間の判断を繰り返すアクティブなスポーツです。また、適度



に大がかりな機材のせいで、日常の練習や大会の時も周囲との協力が不可欠で、個人競技なのにチームワークが必要とされます。スクールに参加している一般のお客様の準備や片付けなどを率先して手伝うことが、プチ・インターンシップにもなり、高校生の人格形成に大きく貢献していることも、知られざる重要なポイントです。

現在は5人の部員で、授業中は主に土曜日、長期休業中は平日にトレーニングを積んでいます。お店からの特別待遇でスクールに参加し、成績こそ残

せなかったものの昨年12月には、大会に参加することができました。

全国高等学校総合体育大会 (インターハイ) にウインドを!

ヨットはインターハイの種目となっています。ウインドは、ジュニアや、大学生の大会があるにもかかわらず、高校生の大会がないことは、淋しい限りです。まずは鎌倉で県内の高校生を対象とした大会を開催し、将来は県大会を経てインターハイ種目に発展させることを目標としています。

学校にウインドサーフィン部がなくても、県内在住の高校生でしたら合同チームとして練習ができるように、受入体制を整えています。授業も部活動も「先生が楽しいことは生徒も楽しい」をモットーに活動しています。インターハイ種目を目指し共に励みましょう。

◀◀◀ 高木常昭先生(一番右)の情熱でクラブができた。可愛い教え子たちと一緒に週末トレーニングに励んでいる。



Topics #2

from MIYAKO
reported by TETSUSHI KOIKE (関東学院大学ウインドサーフィン部監督)

関東学院ウインドサーフィン部とコラボレーション 宮古島で地元高校生を対象にウインドサーフィン体験スクール開催!

関東学院大学ウインドサーフィン部と宮古島ウインドサーフィンクラブ(代表:杉原祐史)は、宮古島からオリンピック選手を輩出することを目的に、2021年12月25日、26日の二日間、宮古島市サニツ浜海岸にて地元の高校生を対象とした「ウインドサーフィン教室



座喜味一幸市長に表敬訪問。右から2番目は宮古島からオリンピックを目指す鈴木ジョージ選手。

in 宮古島」を開催しました。宮古島は、日本代表強化選手が合宿を行うほどウインドサーフィンに適した自然環境があります。しかし、宮古島出身の競技者がほとんどいないことを知り、地元の競技者を増やし、育成したいと考え、この教室を実施しました。



Topics #3

from Fukuoka
reported by AKIRA HOASHI

福岡で若い世代のウインドサーフィン選手育成プログラムがスタート! 「Windsurfing younger generation player training program !」

2022年3月まで実施されていた日本スポーツ振興センター(JSC)主催による「アスリート育成パスウェイ事業」を基盤に、WSF選手育成を目的としたクラブチームが福岡に発足した。

参加者は「福岡県タレント発掘事業」に参加していた小・中学生はもとより、九州地区は高校・大学にWSF部が少ない事もあり、中高生も参加でき

る。また、ほかのセーリング種目から、WSFを活かした多目的トレーニング(体幹トレーニング・感覚的コンディショニングの読み・俊敏性動作の向上など)を目的に参加することも可能だ。

講師は福岡でスクール指導歴30年以上の帆足明氏をメインに、特別講師に福岡県WSF国体代表の村田・山辺選手、レジェンドウインドサーファー



帆足明(ホアシ アキラ)
1972年5月8日生 JWA公認インストラクター
福岡セーリング連盟理事
高校1年生でWSFを始め、ウインドサーフィン歴は34年。福岡市西区今宿浜でカオイスーフを経営。ジュニアユースの育成に力を入れている

の牧野秀紀氏と技術・経験豊富な人材が指導にあたる。

この新しくスタートしたクラブチーム・選手の活動に注目してほしい。

Topics #4

from MIHO
reported by MITSUHARU NIJIMA

▶7年前のレースシーン。この三人は、本誌でも紹介しています。誰だかわかりますか?



集まれ!全国のジュニアウインドサーファー 2022ジュニア・ユース選手権 開催決定

ジュニア・ユース選手権は、今年で17回目を迎えます。今では各種目で活躍するたくさんの選手がこの大会から巣立っていきました。本誌の他のページで紹介しているだけでも、ウェイブの石井兄弟に杉、オリンピックを目指す池田と新嶋、スラロームの金上、佐伯といった選手たちがみんなこの大会でデビューを飾りました。といっても難しく考えなくて大丈夫。ビギナークラ

スと小学低学年クラスは、直線走り抜けるだけなので少し練習したらトライできるのです。大会となると子供たちは真剣。それ以上に応援する家族が必死で、笑いあり涙ありの素晴らしい戦いが毎年繰り広げられています。心に芽生える『勝って嬉しい』『負けて悔しい』の気持ちで子どもたちを育みます。夏休みは、三保に集合!!



【大会概要】
開催日 2022年8月20日-21日
開催地 静岡県清水市三保海岸
競技種目 スラローム
クラス 小学1~2年生クラス
小学3~4年生クラス
小学5~6年生クラス
中学生クラス
高校生クラス
ビギナークラス
詳細は特定非営利活動法人日本ウインドサーフィン協会のホームページに公示されます。
▶▶▶ <https://jw-a.org/>

ちびっ子ウインドサーファー育成プログラムが各地で開催!

かまくらマリン学校
小中学生を対象に2007年に開校。毎年500人以上の子どもがウインドサーフィン、SUPなどを体験している。

鎌倉ジュニア WSF クラス
毎週日曜日に小学1年生から高校生まで集まって練習している。合宿やレース参加を積極的に行っている。

マリンスルージュニアユースクラス
逗子海岸をベースとして活動するジュニアユースクラブ。4月~9月は学校が終わった後も練習している。

2022MRC ジュニア
横須賀津久井浜で小中学生のスクールが本格的に始まった。国枝プロなどが指導。

御前崎ウインドサーフィングクラス
御前崎マリンパークをベースとし、レベルがUPするにつれてロングビーチなどの外海でも練習している。

ふくおかマリン学校
福岡市小戸ヨットハーバービーチや今宿浜で子どもや親子を対象ウインドサーフィンやSUPなどが体験できる。



Message from chairman

持続的な生涯スポーツとしての確立を目指して！

東京オリンピック 2020 が、未曾有の危機である Covid-19 感染拡大のため、万人のコンセンサスが得られない中、開催されました。スポーツよりも人命を優先すべきとの意見が多数あり、社会のスポーツに対する意義が再

考される事態となっています。このような環境の中、各競技の選手はこれまで修練してきた事、自分自身の人生を賭けて挑む姿を世に全力で示すことが人々に困難に打ち勝つ勇気と活力を与えると信じ実行し、そして今日まで得難

い賜物を社会に、そして人々の心に残しています。この威力は、人類の進化、社会の発展につながると強く実感します。

ウインドサーフィンは 1967 年に起源を持つ、比較的新しいスポーツであり、その道具、競技において、これまで多くのイノベーションが成されてきました。また、オリンピック種目でもあります。しかしながら、日本国内においては、他の競技と比べると現時点、社会に大きなインパクトを与えるものにはなっていません。また、国内の愛好者の数、関連ビジネスは、他国あるいは他の競技と比べると小さな規模に留まっており、今後の大いなる発展の余地があります。

そこで、この度、JWA はウインドサーフィンの更なる発展に貢献するために、ミッショ



会長 川添 雄彦 氏

1961 年 9 月 5 日 生まれ
日本ウインドサーフィン協会 (JWA) 理事・会長
Sail No. JPN-00
< 2021 年現在 >
・日本電信電話株式会社 常務執行役員
・NTT Research, Inc. 取締役
・一般社団法人電子情報 通信学会 次期会長
・IOWN Global Forum President and Chair
・鎌倉 SEVENSEAS 会員

ン (役割)、ビジョン (目標)、バリュー (活動) を再定義することとしました。JWA が核となり、ウインドサーフィン愛好者・競技者 (アマ・プロ)、SHOP などの関連事業者、各地水域の関係者、そして関わりを持って頂くスポンサー企業・行政の皆様に対し、これまでにないベネフィットを提供することに尽力していきます。特に重要基盤となるウインドサーフィン愛好者の拡大に注力し、持続的な生涯スポーツとしての確立を目指します。さらに、SDGs への貢献を目指し、地球環境を意識したマリンスポーツの普及と振興により、人々に活力を与え、企業に新たな価値を提供することにより、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

新たな海に船出する日本ウインドサーフィン協会に皆様のご理解・ご支援を頂けると幸いです。宜しくお願い申し上げます。

Mission of JWA

ウインドサーフィン愛好家の皆様

JWA の活動にご賛同いただくとともに、ぜひ会員登録をお願いいたします。ご入会いただけますと協会発行のセイルナンバーを取得できるほか、賠償保険加入などさまざまな特典があります。

協会のコミュニティーを通じて、持続的な生涯スポーツとしての基盤を共に実現しましょう！



詳しくはこちら▶▶

ミッション▶ JWA が果たすべき使命

ウインドサーフィンの素晴らしさを通したマリンスポーツの普及と振興により、人々に活力を与え持続可能な社会の発展に貢献します。

ビジョン▶ JWA が目指すゴール

ウインドサーフィン愛好者の拡大と水域の環境を整え、持続的な生涯スポーツとしての基盤を確立すると共に、SDGs に貢献しうる業界全体の活性化を目指します。

スノーボード、バイク、フィッシング、ウインド&サーフシーンで
トップアスリートのパフォーマンスを支える必需品

SMITH はゴーグルやサングラスを世界トップクラスのクオリティーで作り上げ、今なお進化を続けている。その秘密は、世界中の SMITH スタッフが常にフィールドで R&D を繰り返していること。私も大きな魚の情報をキャッチすればすぐに……！？

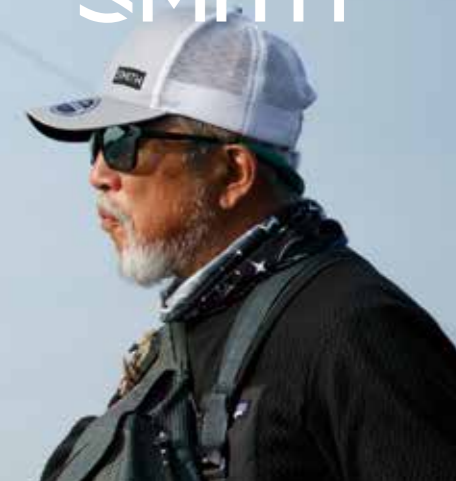


▲ SMITH JAPAN HP

私がウインドサーフィンと出会ったのはもう 40 年以上前のこと。1970 年代後半、イギリスの海岸都市に住んでいた時、海面いっぱいに浮かぶウインドを目の当たりにし、日本に戻りウインドサーフィンジャパンに入社。全世界で急激にウインドサーフィンが発展した 1980 年代にウインドサーフィンを覚え、そしてどっぷりハマった。その後 SMITH に出会い日本代理店を設立。 SMITH JAPAN 社長 中嶋 一男

SMITH 契約ライダー：杉 匠真、佐藤 素子、穴山 未生

SMITH



創刊のご挨拶

このコロナ禍で世界が一変しましたが、ウインドサーフィンをはじめとするマリンスポーツ、アウトドアスポーツは体験する人、そして愛好者となって続ける方が増えてきています。そして、徐々に若い選手たちが、海外の大会への挑戦を再開しています。私も 1977 年 18 歳の時、木のブームでウインドにハマり 32 歳までは選手活動、それから 45 年目の今もウインドサーフィンライフを楽しませていただいています。

そこで選手たちの活躍やウインドの楽しさを一人でも多くの人に伝えたく、この WindNetwork を発行することにしました。雑誌作りはど素人ですが、多くの方のご協力を得て発刊にこぎつけました。

これから不定期になりますが、できるだけ長く続けていければと思っています。今回の発行に関しまして、株式会社柳屋本店様、山田琢二様 (学連 2 代目委員長)、スミスジャパン様、株式会社ウインドサーフィンジャパン様のご協賛に心より御礼申し上げます。

NPO チャレンジスポーツクラブ
理事長 新嶋光晴

WindNETWORK vol.01

協賛 株式会社柳屋本店様
山田 琢二様 (学連 2 代目委員長)
スミスジャパン様
株式会社ウインドサーフィンジャパン様

発行 2022 年 5 月 1 日

発行元 特定非営利活動法人チャレンジスポーツクラブ
〒248-0013 神奈川県鎌倉市材木座 6-16-35
tel : 0467-24-6828 mail : j1111@7seas.jp

ALL RIGH RESERVED
© NPO CHALLENGE SPORTS CLUB 2022

STAFF

PUBLISHER
新嶋光晴

EDITOR
GAMI

SPECIAL THANKS

Robby Naish
入来 磨
根岸 聡
Roy Jones
Yuko Jones
脇元 裕二
豊岡 美枝
富沢 慎
内海 隆
生駒 大輔
吉武 雅博
白方 優史
小林 悠馬
国枝 信哉
帆足 明
井上 隆
小林 大悟
水野 聖玲奈
PWA
JWA
(株)マニニューバーライン

PHOTOGRAPHERS

播本 明彦
杉 桂子
表 ひろし

※敬称略